

陳情第2号 「錢座防空壕の保存に関する陳情」について

目次	ページ
1 九州新幹線西九州ルート建設工事現場（天神町地内） で確認された防空壕跡について	1
2 位置図（防空壕跡が確認された箇所・天神町地内）	2
3 防空壕跡状況写真	3～10
《参考1》長崎新聞記事（平成30年2月7日（水）付）	11
《参考2》長崎新聞記事（平成30年3月2日（金）付）	12

原爆被爆対策部

まちづくり部

平成30年3月



1 九州新幹線西九州ルート建設工事現場（天神町地内）で確認された防空壕跡について

(1) 概要

九州新幹線西九州ルートの建設を進めている鉄道・運輸機構が、新長崎トンネル坑口付近（天神町地内）の建設現場において建物を解体したところ、法面に複数の防空壕跡が確認された。



現地位置図



状況写真

(2) 経過

ア 平成30年2月6日、地元関係者から情報提供があり、長崎市（原爆被爆対策部、まちづくり部）で現地を確認するとともに、事業者（鉄道・運輸機構）に協力要請を行い、防空壕跡の数、幅、高さ、奥行き等を計測し、壕外から写真撮影して現状の記録を行った。

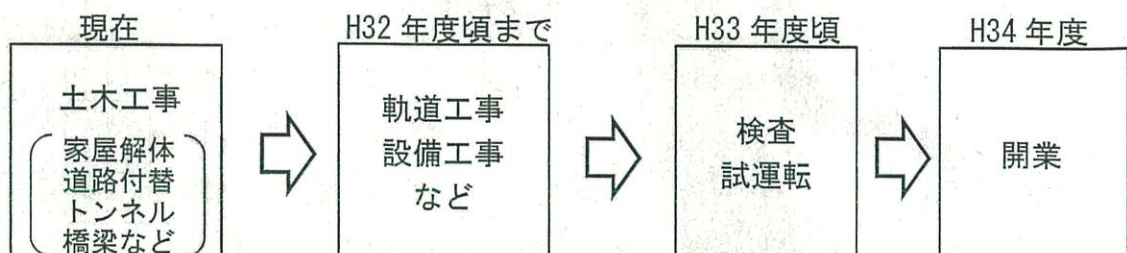
イ 原爆被爆対策部において、当防空壕跡について文献等の調査を行った。原爆資料館で保存している写真の中には、当該防空壕跡に着目して撮影しているものはなく、戦後、原爆の影響について克明に調査した「米国戦略爆撃調査報告書」「日本学術研究会議 原子爆弾災害調査報告書」にはこの防空壕跡についての記載は特になかった。

(3) 今後の対応

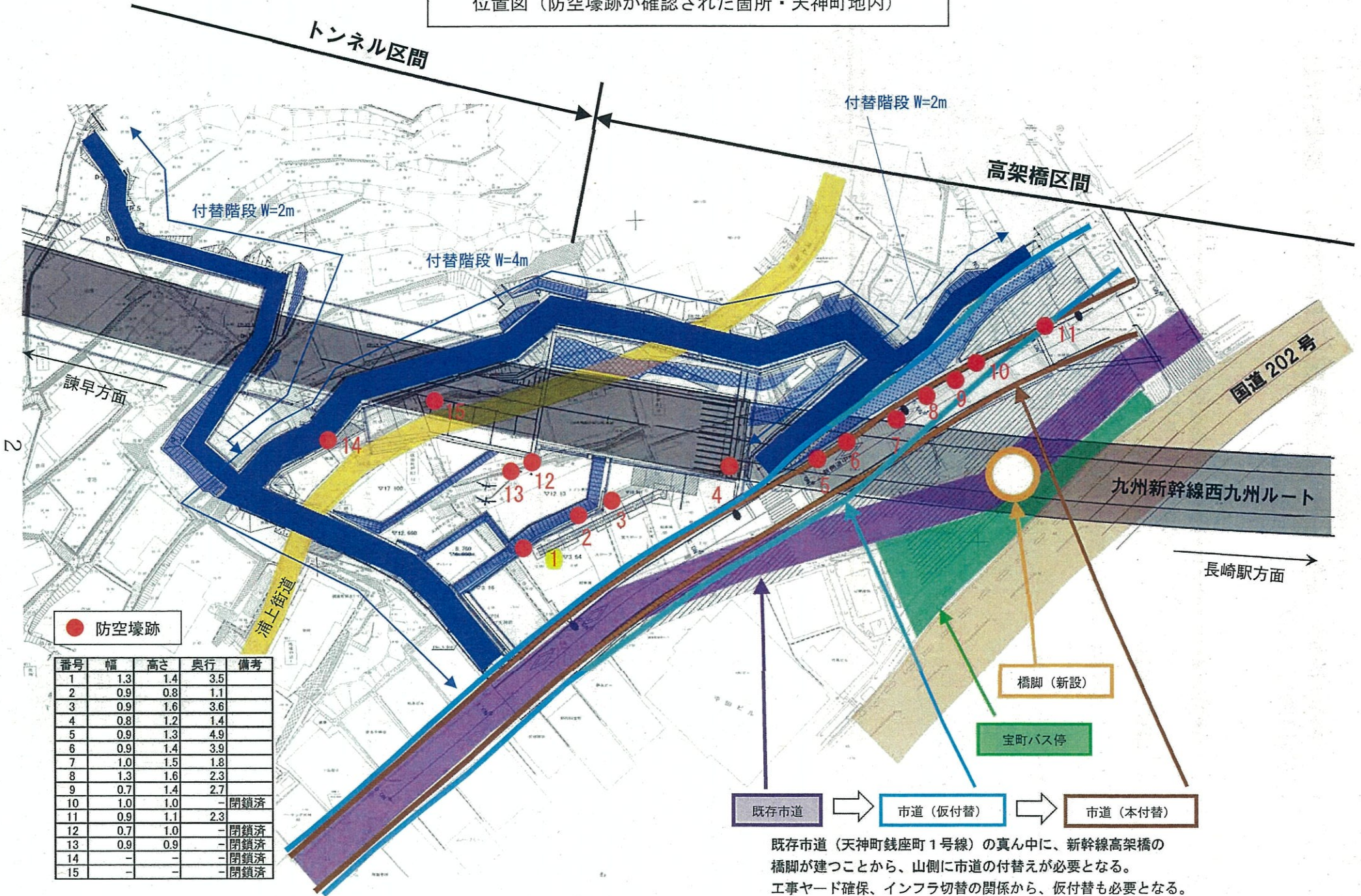
ア 今回確認された防空壕跡は、原爆被害の顕著な痕跡がなく、前述の主要な調査記録にも記載がないことから、現在も市内に多く残る防空壕跡と同様に、基本的には埋戻しや閉塞などにより市民の安全を確保すべきものと考えている。

イ なお、今回の防空壕跡は、新幹線建設工事に伴い新しく築造される擁壁や、車道・歩道の切替に支障があるところに位置している。

(4) 新幹線建設工事スケジュール（予定）

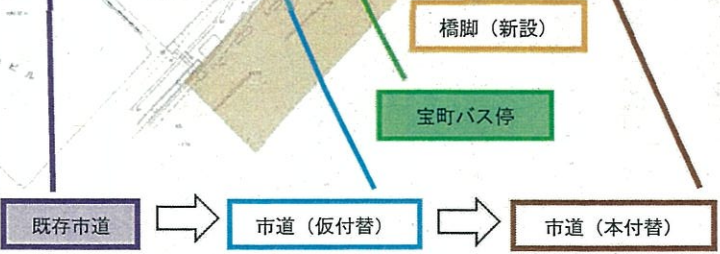


位置図（防空壕跡が確認された箇所・天神町地内）



● 防空壕跡

番号	幅	高さ	奥行	備考
1	1.3	1.4	3.5	
2	0.9	0.8	1.1	
3	0.9	1.6	3.6	
4	0.8	1.2	1.4	
5	0.9	1.3	4.9	
6	0.9	1.4	3.9	
7	1.0	1.5	1.8	
8	1.3	1.6	2.3	
9	0.7	1.4	2.7	
10	1.0	1.0	-	閉鎖済
11	0.9	1.1	2.3	
12	0.7	1.0	-	閉鎖済
13	0.9	0.9	-	閉鎖済
14	-	-	-	閉鎖済
15	-	-	-	閉鎖済



既存市道（天神町銭座町1号線）の真ん中に、新幹線高架橋の橋脚が建つことから、山側に市道の付替えが必要となる。
 工事ヤード確保、インフラ切替の関係から、仮付替も必要となる。

防空壕跡1



防空壕跡2



防空壕跡3



防空壕跡4



防空壕跡5



防空壕跡6



防空壕跡7



防空壕跡8



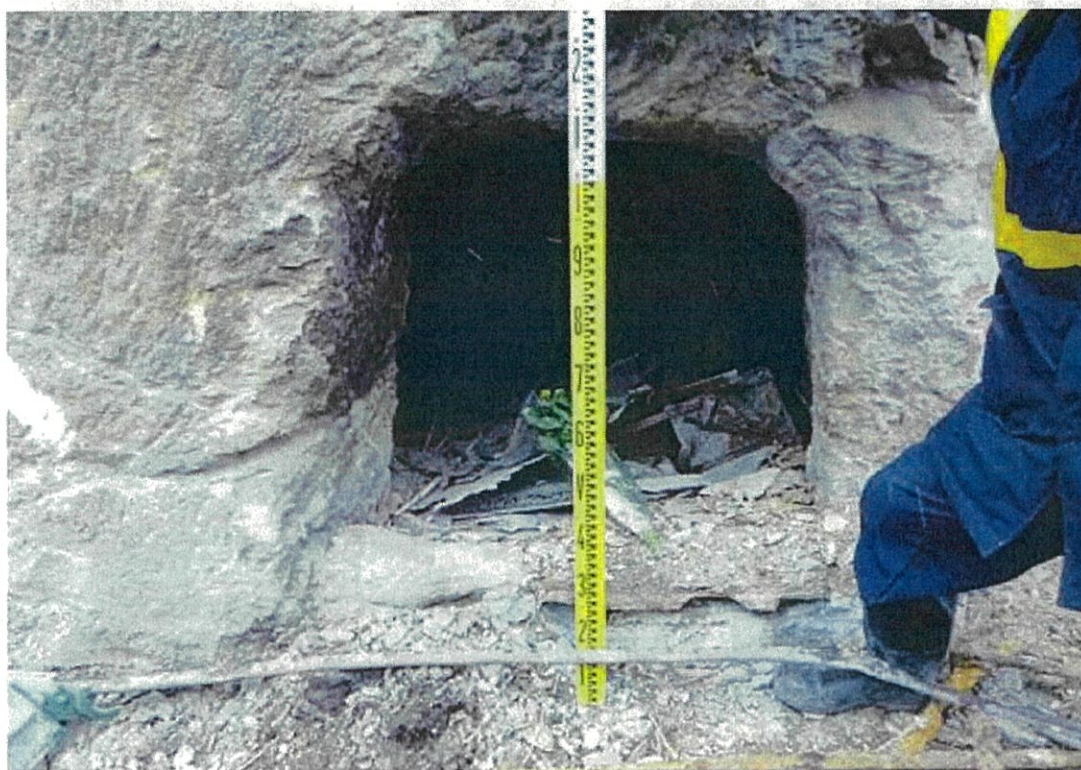
防空壕跡9



防空壕跡10



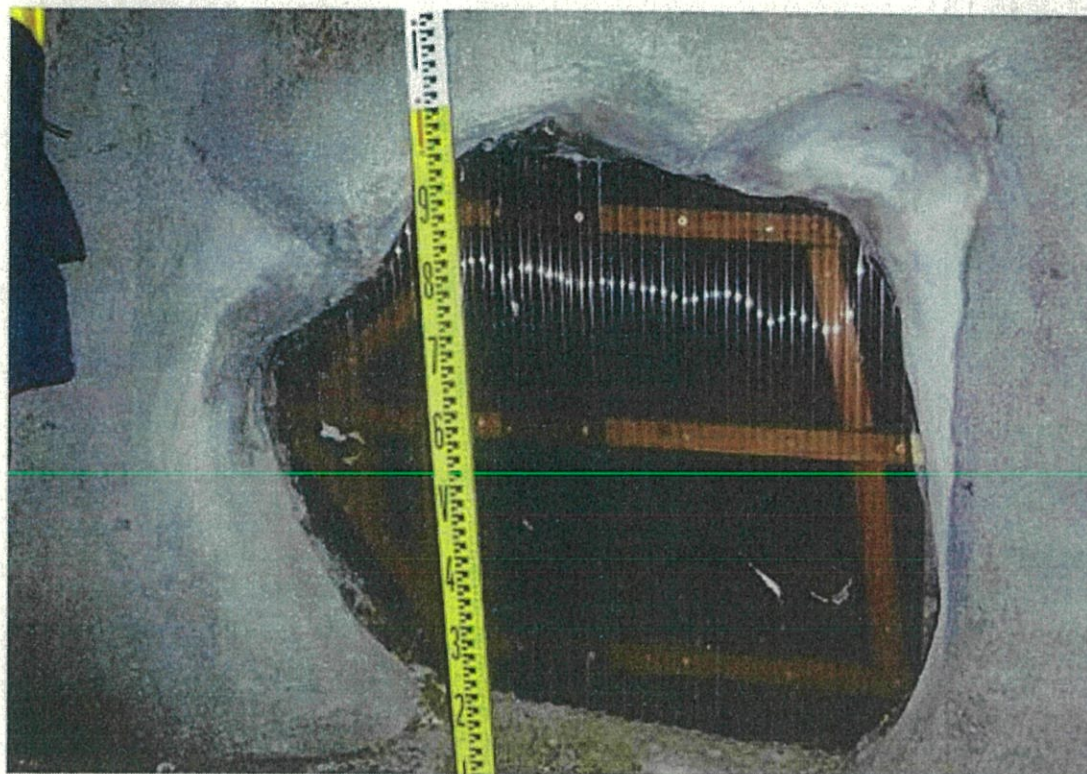
防空壕跡11



防空壕跡12



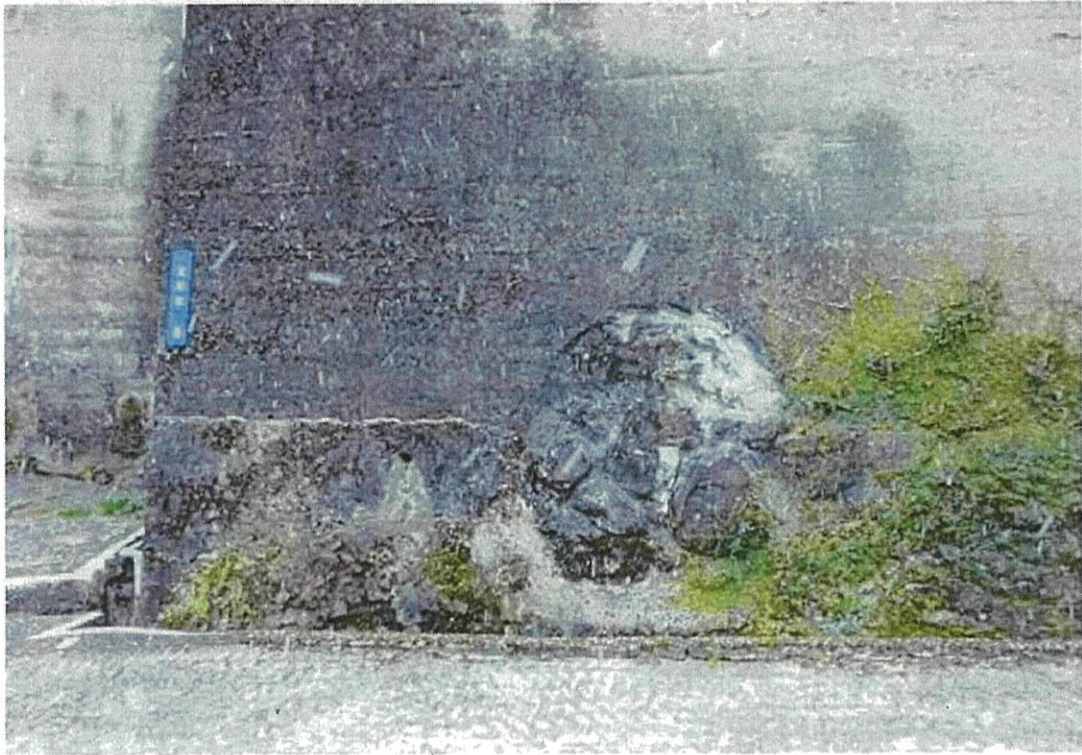
防空壕跡13



防空壕跡14



防空壕跡15



(1) 2018年(平成30年)2月7日 水曜日

九州新幹線長崎ルート^①の建設現場で確認された防空壕。左にあるのが最大の壕
=長崎市天神町（則行優志撮影）



新幹線建設地に防空壕

11カ所、長崎原爆で市民避難

九州新幹線長崎ルートの建設現場となっている長崎市天神町で、戦時中に地元住民が使用した防空壕11カ所が確認されていたことが、6日分かった。各世帯が掘った壕と見られ、家屋解体によって入り口が表面に露出した。73年前の長崎原爆投下時には市民が避難したとみられる。市も壕の存在を認識しているが、2022年度の新幹線暫定開業が決まっていることから、中川正仁原爆被爆

対策部長は「特段の理由がない限り保存は難しい」としている。

【22面に関連記事】

天神町の建設現場は、被爆当時の銭座町2丁目の一帯にあたる。長崎原爆戦災誌によると、銭座地区は爆心地の南1・2、2に位置し、被爆直前には約480世帯、約2350人が住んでいたと推定される。原爆で全壊した銭座町2丁目の「天満宮」など数カ所の主要施設に壕が掘られたほ

か、各家庭が床下などに退避壕を設けたという。建設現場の敷地は横幅約160㍍、縦約10㍍の長方形。ここは長崎ルートのトンネルの出入り口付近になる予定。家屋解体が始まった昨年7月以前に防空壕とみられる痕跡を2カ所確認。その後、解体跡地で次々と壕が見つかり、横幅約160㍍の岩の崖に大小11の壕がほぼ等間隔で並んでいた。最大の壕の入り口は縦約3㍍、横約5㍍。詳しく

現場では6日、地元自治会の関係者、工事業者、神社関係者が壕に向かっておはらいをした。

防空壕保存を巡っては、11年の平和公園のエスカレーター設置工事に四つの壕が見つかり、市民団体が全面保存を求めたが、市は安全面や経費などを理由に二つを保存した。

（宮本祥太）

い調査がなされていないため、内部の構造などは分かっていない。現場では井戸の痕跡も見つかった。

工事を発注した鉄道・運輸機構の九州新幹線建設局は「まずは防空壕について長崎市の方針を確認する。建設工事への影響は現段階では回答できない」としている。

新幹線建設現場の防空壕群 長崎

九州新幹線長崎ルート建設現場の長崎市天神町で確認された防空壕11カ所について、工事発注元の鉄道・運輸機構九州新幹線建設局は1日、既に4カ所を切り崩し、または埋め戻したことを明らかにした。長崎市が「保存する特段の理由がない」との見解を示したためだが、地元住民からは「新幹線のルート建設を考えれば解体は仕方ない」と容認論が聞かれる一方で、「一部でも残してほしい」と要望する声も上がっている。

一部は既に切り崩し



「解体容認」「保存」の声交錯

防空壕群が確認された天神町を含む銭座地区は長崎原爆の爆心地の南1・2〜2・2の位置。73年前の原爆投下時は約2350人が暮らし、壕に避難した人もいたとみられる。

工事現場は長崎ルートのトンネルの出入り口付近になる予定。同建設局によると、11カ所のうち8カ所はトンネルから延びる高架橋や再整備される市道などに重なり、残り3カ所の部分にはトンネルやレールなどの維持管理に必要な機材などを置くスペースを整備する。先月19日から1カ所を切り崩し、3カ所を埋め戻したという。

この防空壕群を巡る地元住民の声はさまざま。付近をよく通るといふ70代女性は「防空壕があるなんて全然知らなかった」と驚いた様子。70代男性は銭座地区に壕が点在していることを踏まえ「他と比べて特別珍しいものでもない」と淡々と話す。90代男性

は「保存となれば新幹線の工事が止まり各方面に影響が出る。（壕を）つぶすことになっても仕方ない」と言う。一方で保存を求める意見もある。この地域でまちづくりに取り組む西坂・銭座小学校区勤労者協議会は先月27日、長崎市議会議長に保存と活用を求めて陳情。開会中の定例会の教育厚生委員会で審査される。中村任代会長（71）は「まとまった形で確認された防空壕群は貴重。子どもの平和教育に生かすために保存する価値がある」と話す。

4日「原爆遺跡めぐり」で解説

長崎平和推進協会は4日、長崎ルート建設現場で確認された防空壕群について解説する「原爆遺跡めぐり」を実施する。西坂・銭座小学校区勤労者協議会の中村任代会長が九州新幹線

（宮本祥太）

無料。（宮本祥太）